

大阪府立北野高等学校 平成 30 年度 第 1 回 学校運営協議会 議事録 (抄)

1. 日 時：平成 30 年 6 月 15 日 (金) 15:00～16:30

2. 時 程：15:10～16:30 運営協議会 (於：校長室)

(1) 校長挨拶

(2) 協議会会長・副会長の選出

(3) 授業参観に対する感想・意見 (○：学校運営協議会委員 ●：事務局員)

(ア) 発言・発表の機会の充実、グループワークの活用

○考えさせる場面が多い。生徒が発言・発表する機会が多く設けられており、新鮮であった。生徒が楽しんで授業を受けていることが感じられた。

○孤立化している現代社会とは逆に、学校現場では仲間との対話や意見交流を大切にしていることが伝わってきた。

○集団での議論自体はよいものの、内容を深まりのあるものとするのは難しい。指導する教員には育てる苦労があるだろう。

○生徒の想像力をかき立てるような教員の話し方が効果的であった。

○グループワークはよいが、積極的に話すことのできていない生徒に対する指導は課題であると感じた。

(イ) ICT の活用

○ICT を利用した教材の作りこみが年々良くなっている。

古文の授業でも ICT が効果的に用いられていることが印象的であった。

○PC ではなくタブレットを用いることで教員の移動が可能になり、机間指導ができていたことが非常に良かった。

●現段階では学校全体で導入することは難しいであろうが、ゆくゆくはタブレットが効果的に活用されるようになるのではないかと。

●タブレットを使用していた教員は、自費でポケット WiFi を購入して使用している。

(4) 事務局より今年度の報告

●校長

(ア) 平成 29 年度「学校経営計画及び学校評価」

・現行のシステムは、学校内外の意見を取り入れつつ、数値目標を設定して定量的に検証する、というものである。数値は概ね右肩上がりである。

・ICT 等の環境改善は終わりがなく、今後も継続して充実を図る。

・意見を頂戴して改善を行っている例に、英語上級セミナーがある。昨年度までの TOEFL セミナーは、スピーキングの力の向上・検証に課題があったため、新たに今年度より、英語上級セミナーに改めた。英語運用能力や発信力を育成するため、スカイプを利用したネイティブとの対話レッスン

等を取り入れている。

- ・学校教育自己診断も活用し、集計結果の数値や寄せられた意見を、迅速に取り組みに反映することを心掛けている。

(イ) 平成 30 年度「学校経営計画及び学校評価」

- ・本校のめざす学校像は以前から一貫している。
- ・その上で、さらなるブラッシュアップのため、課題研究（校内研究）に取り組んでおり、中長期的な構想を練りたいと考えている。
- ・評価の指標としては、①3 年生の第一志望現役合格率、②学校教育自己診（生徒向け）中の項目「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価の割合、③同「北野高校に来てよかったと思う」の肯定的評価の割合、の 3 点を基幹としている。

●教務部

- ・教科書選定スケジュール
- ・観点別評価

本校は従来、知識の習得に重点を置いていたが、今後は「思考力・判断力・表現力」を中心に、「関心・意欲・態度」も重視していく。

新たな観点別評価の実施に伴い、成績の提示の方法も変更する。試験的な取り組みとして、1 年生の学年末から導入する予定である。

●進路部

- ・130 期入試結果・・・現役の合格率が上昇し良い結果となった
 - ①適切な時期に担任から効果的なはたらきかけがあったこと
 - ②センター試験でしっかり得点できたため強気の出願をすることができたこと
 - ③英語が早くから仕上がっていたこと 等が考えられる。
- ・131 期現状報告
 - ①京都大学志望者が昨年より大幅に増加した。
 - ②国立大学医学部医学科志望者が、4 年ぶりに増加に転じた。

●指導部

- ・学校の様子
- ・校則

「質素清楚を旨とする」という言葉の意味を理解してほしいと考えている。個別に声かけ等、指導は行っている。

（校長）ルールとして定めていないことと、指導しないこととは、まったく異なる。

●首席

- ・高大連携

①新たな企画として「奈良県立医科大学での研修」と「海外プロジェクト探検隊」（読売教育ネットワーク及び読売テレビ協賛、三菱商事によるプログラム）などがある。

②例年、高大連携企画への参加は1年生が多いが、今年度は、2・3年生も積極的に参加する傾向がみられる。

・広報

ウェルカムボード設置と学校HPの改善

●首席

・高大接続改革の取組

①思考力判断力表現力の育成②英語4技能育成

③課題研究④ポートフォリオ

・SGH指定終了後の取組の存廃

・長期的な視点に立った教育環境整備について

（5）協議・意見交流

（ア）課題研究

○課題研究に関わる41名の内訳はどうなっているのか？

●本校の教員、非常勤のベテランの先生方、大学院生等で行っている。また、それ以外には単発で講演をしていただいている。

○課題の設定は非常に難しいと思われる。生徒が研究を重ねて達成感を得られるようガイドしなければならない。

●全体に、理系は方向性が定まりやすいが、文系は方向性を定めるのが難しい傾向にある。知識がなければ課題を設定できない面もあるが、時間的制約もあるため、前年度の経験則を活かしつつ、課題の設定を行っている。

○課題研究の講座数について、文系・理系の比率は？

●理系7割、文系3割程度である。横断的なものもある。教員がシラバスを説明し、その中から生徒が選択するという形である。

○課題研究の予算の確保が必要であるという話であったが、具体的にはどのような状況にあるのか？

●SGHの予算が無くなるため、どのように対処するかが大きな課題である。SGH予算を、課題研究に招く講師の謝礼やフィールドワークに用いていたため、SGHの予算が無くなることは、今後、SGH枠であった課題研究をどのように実施するのかという問題に直結している。「SGH課題研究」という枠が無くなり、「課題研究」に変わるということか。

（イ）海外研修

●本校は大変なサポートをいただいております、様々な取組やその改良を行って

いる。ハワイ・シンガポール研修では、昨年は対象学年を限定していたが、今年度はその制限を取り払う等、取り組みの改良を行っている。自ら手を上げて海外に挑戦する生徒が増えており、喜ばしいことである。後輩が先輩から学ぶことも多く、できるだけ学年を超えて交流する機会を確保したい。

(ウ) 遅刻

○1年生の遅刻が多い理由は何か？

●理由は様々だが、寝坊もある。

●今後が大切である。入室許可証を渡す際に生徒に声かけをして、話を聞きつつ、一人一人を大切に指導してゆきたい。

○自宅一学校間の距離との関連はみられるのか？

●その点はまだ完全には把握できていないが、1年生に遅刻者が多いことは気にかかる。3年生は受験を前にして来るのが難しくなる生徒もみられるものだが。

今後、学年の先生と密に連携しながら、規則正しい生活の大切さを伝えたい。

(エ) SGH 終了

○SGH が終わるとのことだが、文部省は今後どのようにする方針であるのか？
他校はどうしているのか？

●後継事業が始まることも考えられるが、まだ情報が入ってきておらず、今後については未定の状態である。自立化が求められる可能性もある。

本校は過去に予算が減らされた背景もあったが、完全に予算が無くなると、取り組みに大きな影響が出ることが予想される。今後は受益者負担も含めて考えてゆきたい。

(6) さいごに

(司会) 平成 30 年度の学校経営計画は承認でよいのか？

(異議なし)

学校への意見書の提出はあったか？

(意見書の提出はなかった)

次回の運営協議会は、10 月 13 日 (土) 実施予定である。